



個人投資家向け会社説明会

2026年2月27日(金)

 三菱ガス化学株式会社

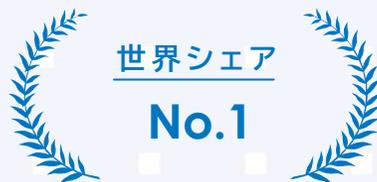
CSR・IR部 IRグループ

証券番号(東証プライム)

4182

1		三菱ガス化学の概要	04
2		三菱ガス化学の事業	17
3		中期経営計画	28
4		株主還元	41

脱酸素剤「エージレス®」



菓子などの食品に同封され、食品分野で長期間の「おいしさ」と「鮮度」の保持を実現。三菱ガス化学が世界に先駆けて開発し、世界シェアトップを誇る製品



■ 主な採用事例



とらや
御代の春・あんやき



東京ばな奈「見つけたっ」



MGCC

1. 三菱ガス化学の概要

社名 三菱ガス化学株式会社（登記社名:三菱瓦斯化学株式会社）

所在地 〒100-8324 東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル

創業 1918年(大正7年)1月15日

設立 1951年(昭和26年)4月21日

資本金 419.7億円(2025年3月末現在)

決算期 3月

従業員数 連結:8,146名、単体:2,523名(2025年3月末現在)

グループ会社数 116社(2025年3月末現在)

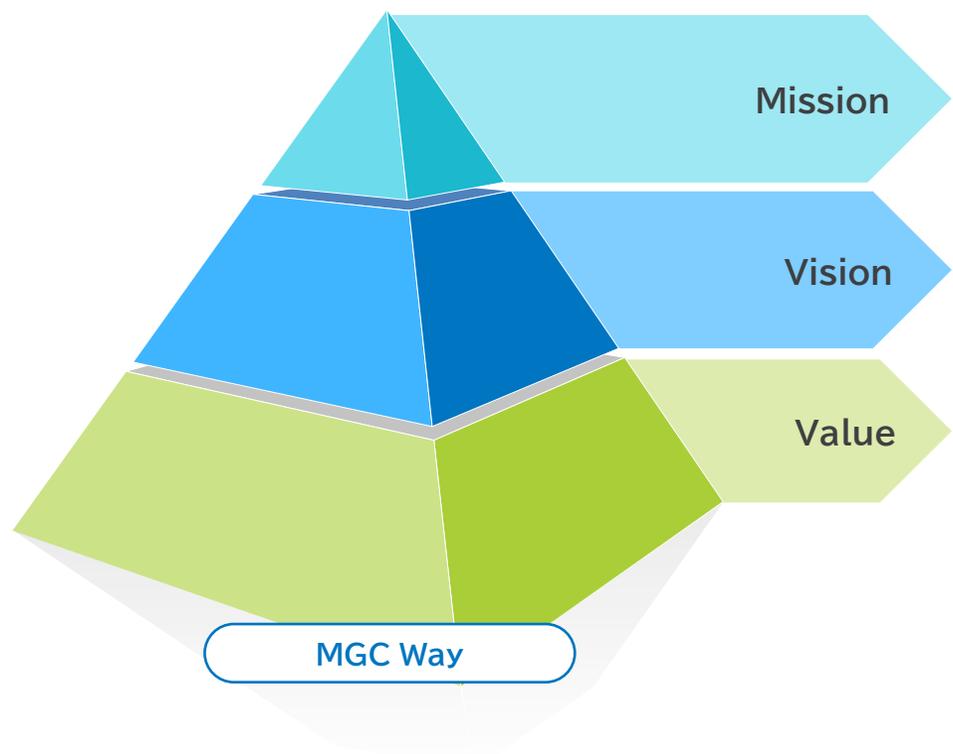
連結売上高 7,735億円(2024年度)



2050年の化学メーカーのあり方を見据えて、
新しい事業の創出と既存事業の再構築により
事業ポートフォリオを強靱化しながら、
グループ全体の収益性を高めていきます

いさはや よしのり
代表取締役社長 伊佐早 禎則

- MGCグループは、理念体系「MGC Way」のもと、経済的価値と社会的価値の両立に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



Mission 社会と分かち合える価値の創造

Vision 化学にもとづく、特色と存在感あるエクセレントカンパニー

行動理念

プロフェッショナル集団として

1. 変化を恐れぬ勇氣
2. 高い目標への挑戦
3. 目標達成への執念
4. 共感を広げるコミュニケーション

MGC企業行動指針

サステナビリティ推進指針

世界のグループ会社

116社



連結海外売上高比率

約68%



研究開発費

約261億円(連結)



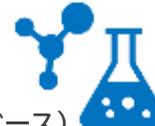
連結従業員数

8,146名



自社開発技術による製品

90%以上(単体・生産品目ベース)



世界市場トップシェア製品数の比率

約40%



連結売上高

約7,735億円



連結営業利益

約508億円



株主還元

16期連続 累進配当

ROE

6.9%(連結)



ROIC

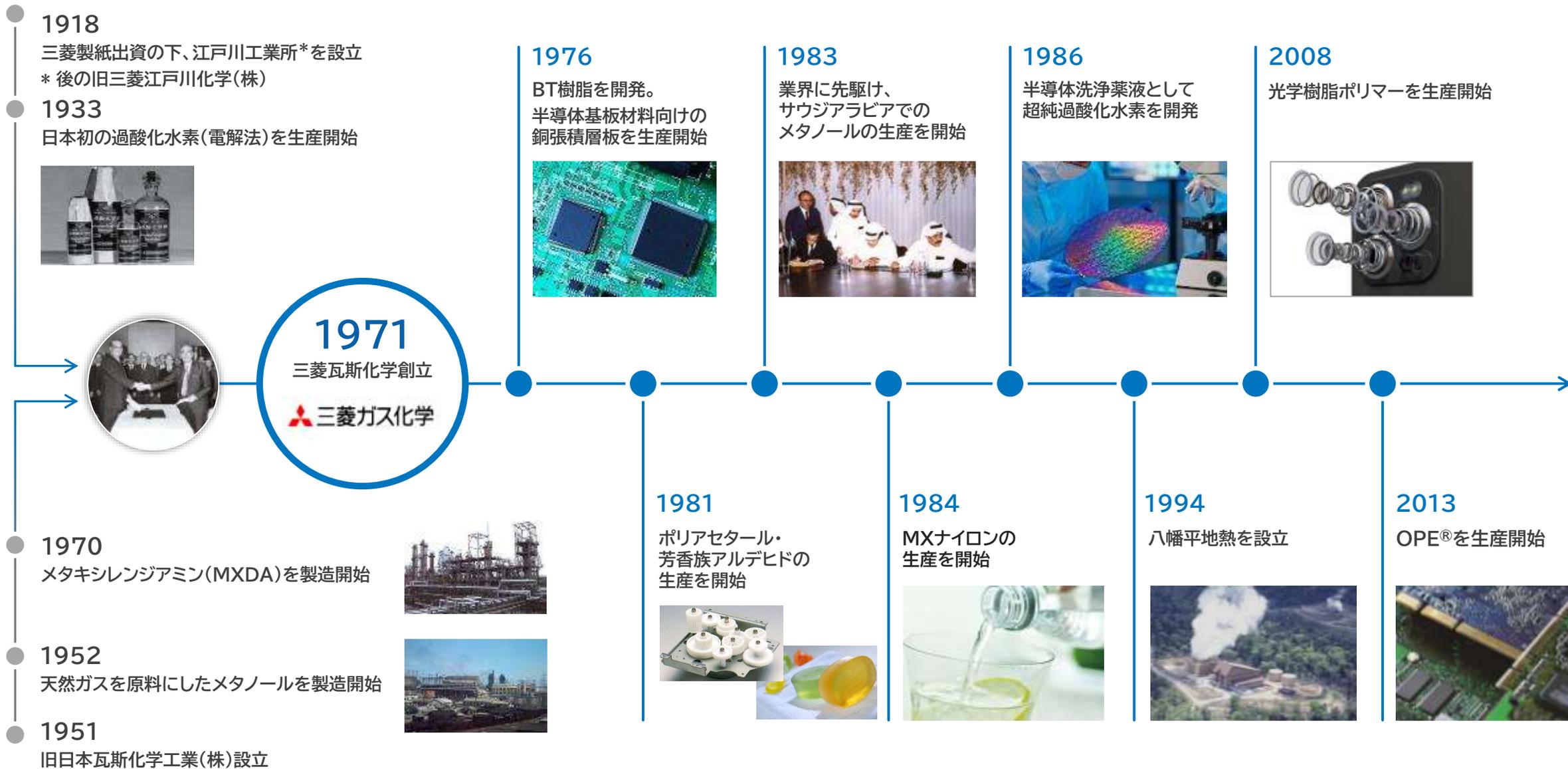
6.4%(連結)



総還元性向(現中計期間の方針)

50%





1 独自技術を生かし、幅広い分野でトップシェアを獲得

成長著しい半導体市場やスマートフォン市場で活躍するICT 3事業を中心に、幅広い分野でグローバルトップシェアを獲得



2 技術志向のDNA

製品の90%を自社開発技術で製造(生産品目ベース)

技術立社の源となる研究員やエンジニアなど技術系社員が多数在籍



3 カーボンニュートラルの実現に貢献する技術・製品

長年培ってきた天然ガス開発やメタノール製造の経験を生かし「カーボンニュートラル技術」の事業化を推進

CO₂を原料としたメタノール製造や、CO₂回収・貯留・利用の研究開発などに注力



– 独自技術を生かして、様々な市場で世界トップクラスのシェアを獲得



BT材料(半導体パッケージ基板材料)

世界シェア 1位



超純過酸化水素(半導体洗浄液)

世界シェア 1位



光学樹脂ポリマー

世界シェア 1位*1



ポリアセタール(POM)

世界シェア 3位



メタノール

生産能力 世界3位*2



メタキシレンジアミン(MXDA)

世界シェア 1位



MXナイロン

世界シェア 1位

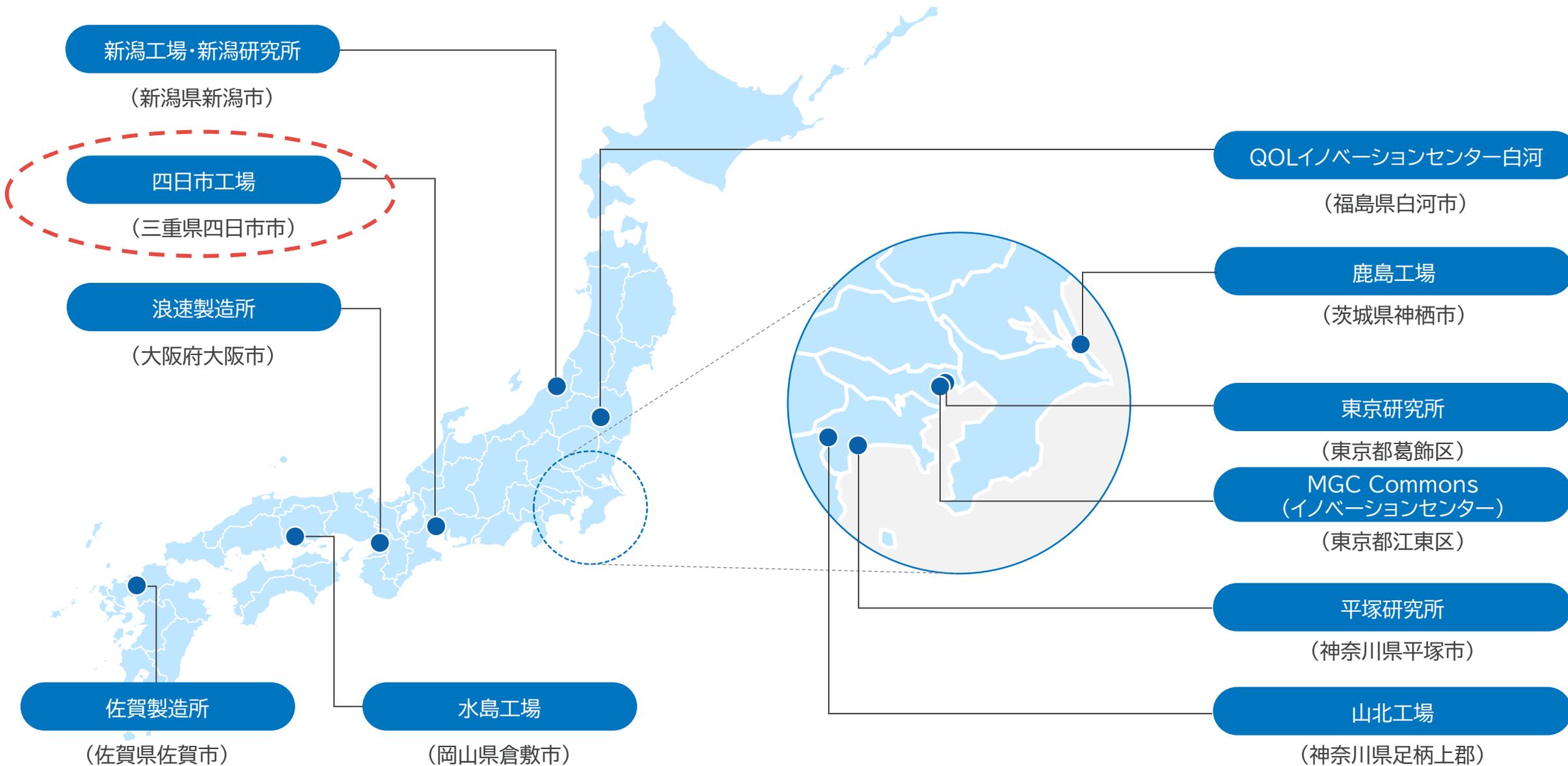


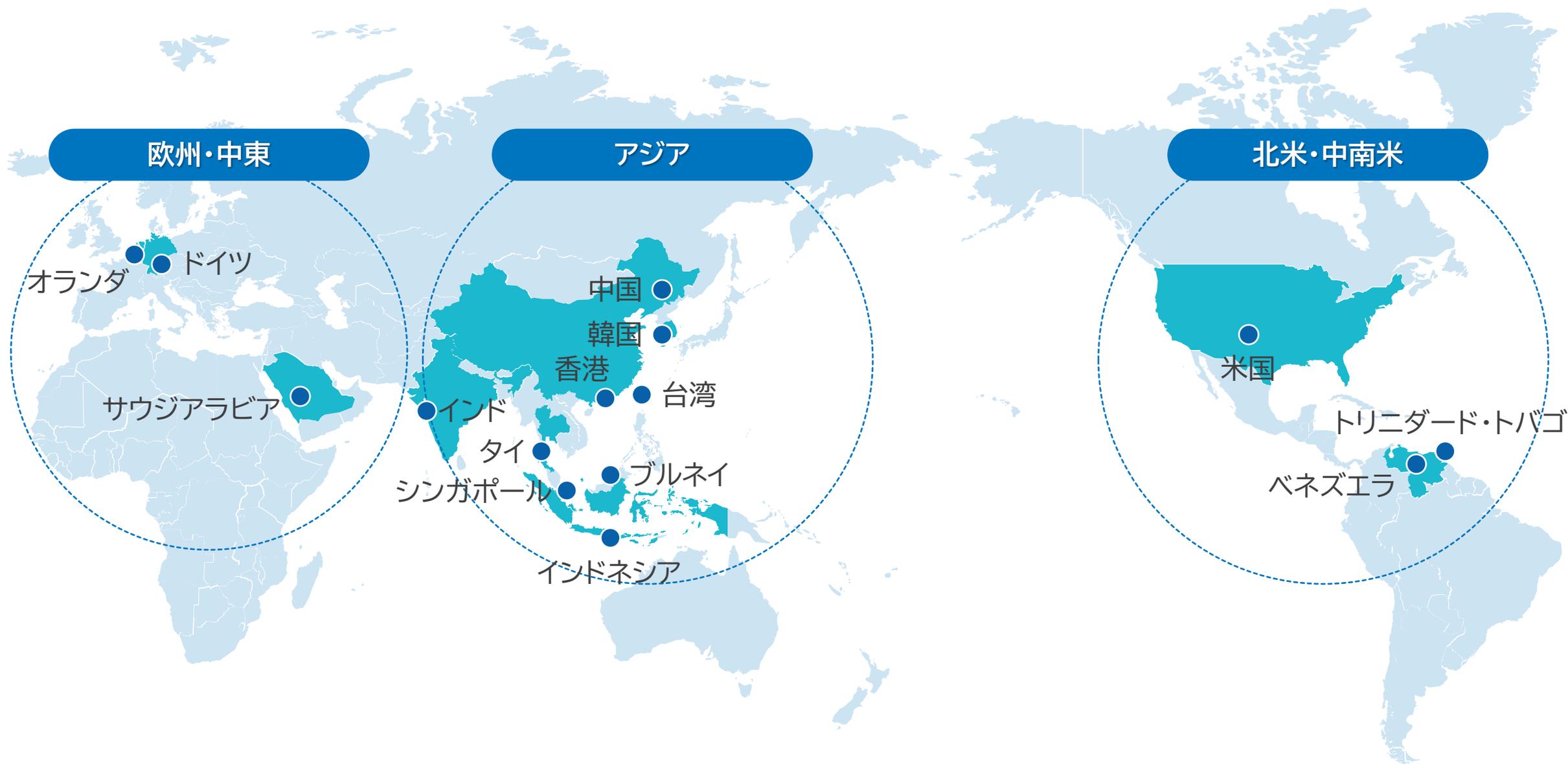
芳香族アルデヒド

世界シェア 1位

*1 高屈折樹脂として

*2 当社技術を用いた関係会社の総計(2024年度)





- 当社ならではの特色ある技術を活用し、カーボンニュートラルに貢献する製品・技術の開発を推進
- 省エネ推進・新エネルギー導入、CCUS*実装、原料転換などを進め、GHG排出量を削減

*Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage 二酸化炭素回収・有効利用・貯留。

環境循環型メタノールCarbopath™



クリーンアンモニアの調達 (燃料、グリーン水素原料)



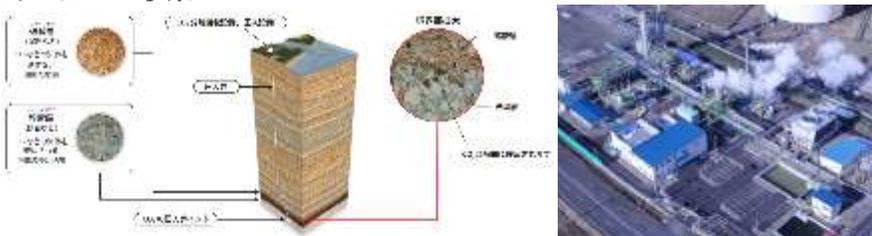
CO₂利用ポリカーボネート



ケミカルリサイクル



CCS / ブルー水素



高効率LNG(GTCC*)発電

*ガスタービン・コンバインド・サイクル



※福島ガス発電機提供

地熱発電



※湯沢地熱機提供

メタノール:水素キャリア

rDME(ジメチルエーテル)* :
グリーン燃料

*renewable DME:バイオマスや産業廃棄物等を原料として製造されたDME

バイオマス原料転換



エネルギー制御システム: 半導体材料



全固体電池(EV向け)、 燃料電池(FCV向け)



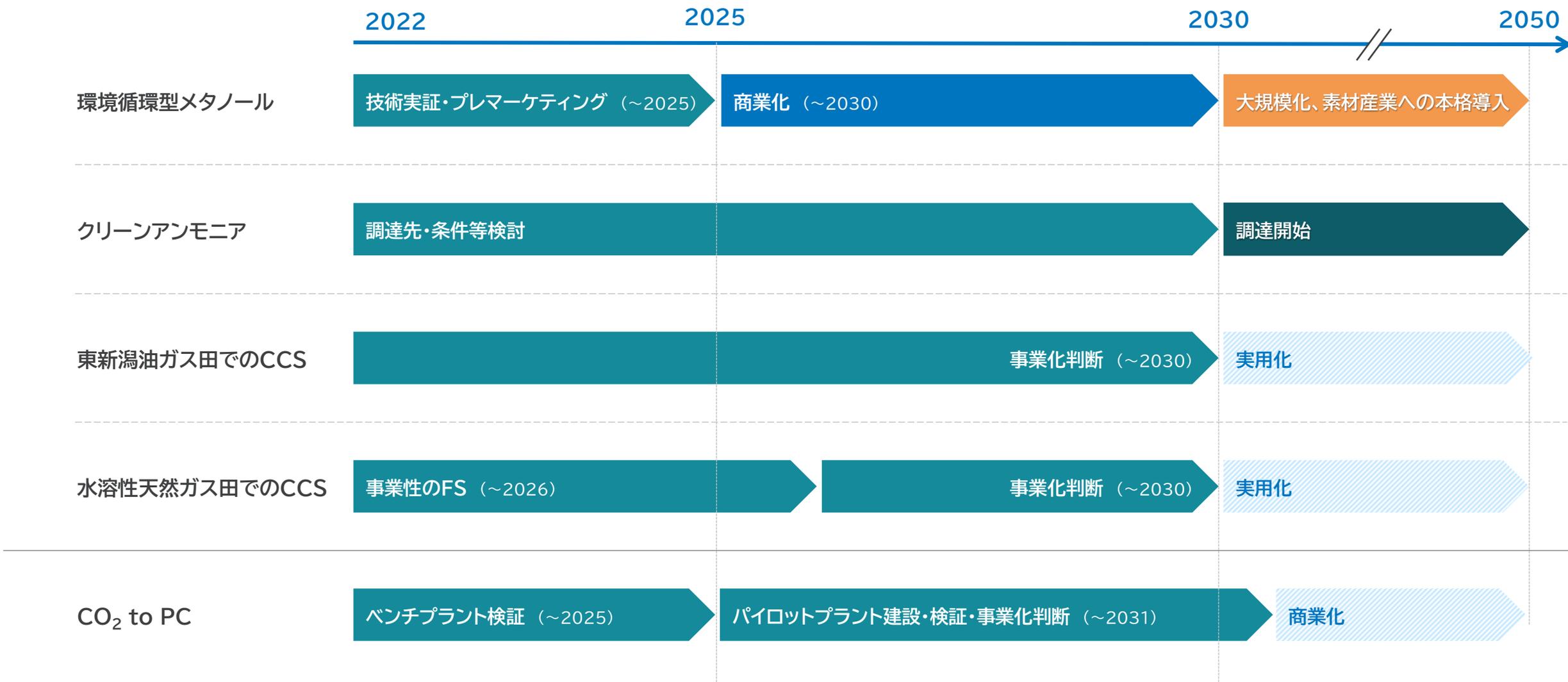
運転効率化: 自動車向けセンシングカメラ用 光学ポリマー



ダイレクトエアキャプチャー (DAC):特殊アミン



主要カーボンニュートラルアイテムの実装ロードマップ



2024年度実績・2025年度通期業績見通し

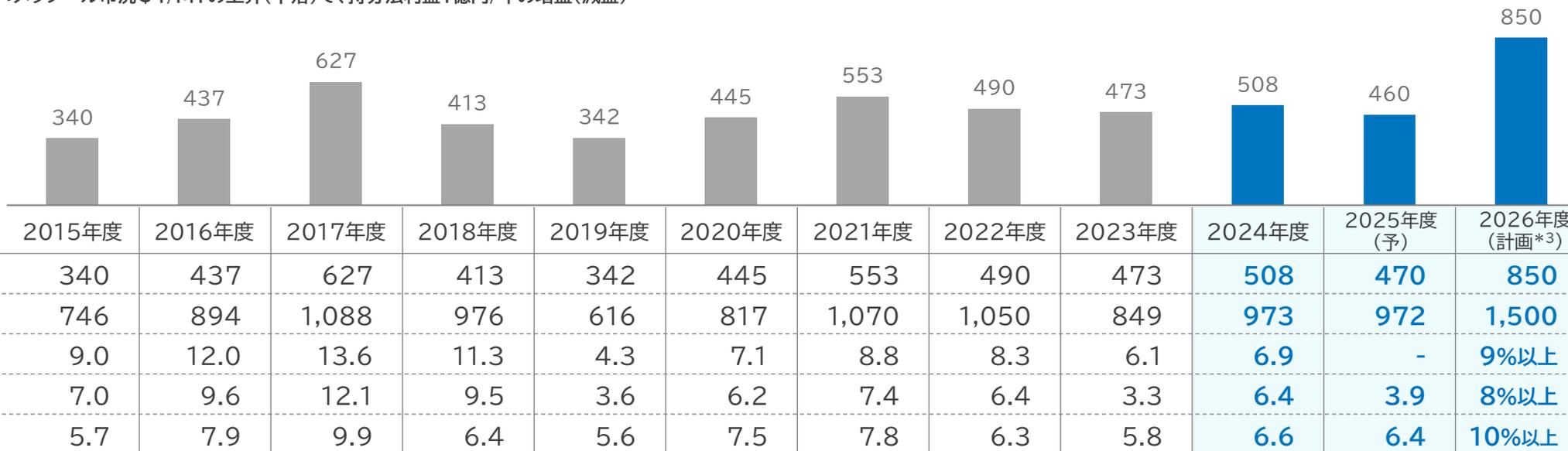


単位:億円	2023年度 実績	2024年度 実績	増減額	増減率(%)	2025年度 通期予想	増減	増減率(%)
売上高	8,134	7,735	▲398	▲4.9	7,300	▲435	▲5.6
営業利益	473	508	+35	+7.4	470	▲38	▲7.6
経常利益	460	603	+142	+31.0	550	▲53	▲8.8
親会社株主に関する当期純利益	388	455	+67	+17.3	▲180	▲635	-
為替レート(JPY/USD)	145	153	-	-	150	-	-

※本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

感応度(概算) 為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益5億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益)
 ※2025年度予想 原油(Dubai) : \$1/bbl.の上昇(下落)で、3億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず
 メタノール : メタノール市況\$1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

営業利益の推移



*1 EBITDA=経常利益+減価償却費+支払利息

*2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本

*3 2024年5月10日 中期経営計画公表時の計画

2025年度 第3四半期 貸借対照表



単位:億円	2025年3月末	2025年12月末	増 減
流動資産	4,602	4,655	+ 52
現預金	682	694	+ 12
売掛債権	1,578	1,571	▲ 7
棚卸資産	2,075	2,117	+ 42
その他	266	271	+ 4
固定資産	6,594	6,488	▲ 105
有形固定資産	3,665	3,472	▲ 192
無形固定資産	249	240	▲ 9
投資その他の資産	2,678	2,774	+ 96
資産合計	11,196	11,143	▲ 53

単位:億円	2025年3月末	2025年12月末	増 減
負債	4,223	4,439	+ 216
買掛債務	1,030	951	▲ 79
有利子負債	2,139	2,518	+ 378
その他	1,052	969	▲ 82
純資産	6,973	6,704	▲ 269
株主資本	6,007	5,554	▲ 453
その他包括利益累計額	674	822	+ 148
非支配株主持分	291	327	+ 35
負債・純資産合計	11,196	11,143	▲ 53

自己資本比率 **57.2%** (2025年12月末時点)



MGCC

2. 三菱ガス化学の事業

機能化学品事業部門

最終ユーザーに近い製品を提供、
マーケットニーズと直結したビジネスを展開



超純過酸化水素(半導体洗浄液)



光学樹脂ポリマー



BT材料
(半導体パッケージ基板材料)



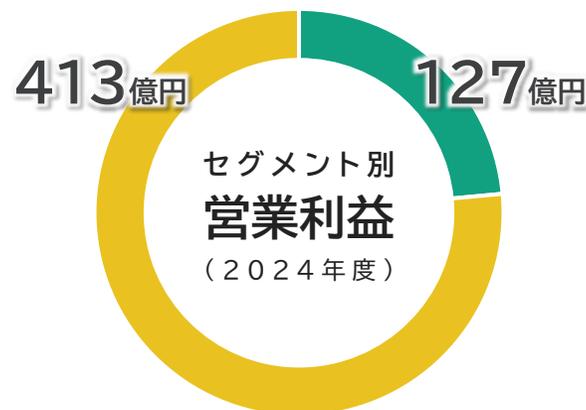
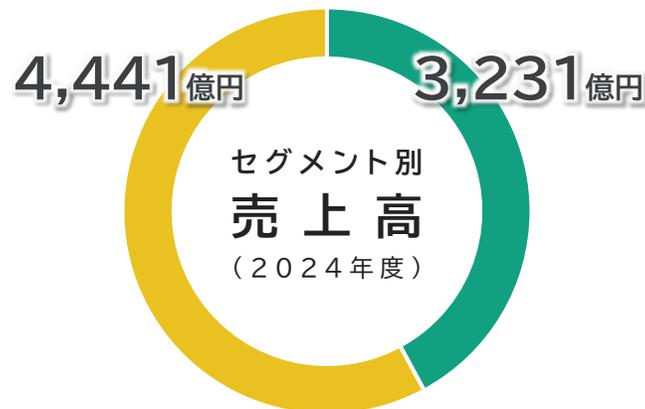
ポリアセタール(POM)



ポリカーボネート(PC)



脱酸素剤エージレス®



グリーン・エネルギー&ケミカル事業部門

天然ガスと混合キシレンを起点にした
プロダクトチェーンを展開



メタノール



MXナイロン



地熱開発



芳香族アルデヒド



メタキシレンジアミン(MXDA)

※ セグメント別売上高、営業利益の円グラフは、その他の事業及び調整額を除いて掲載しています。

■ セグメント別売上高構成比

機能化学品事業

4,441億円



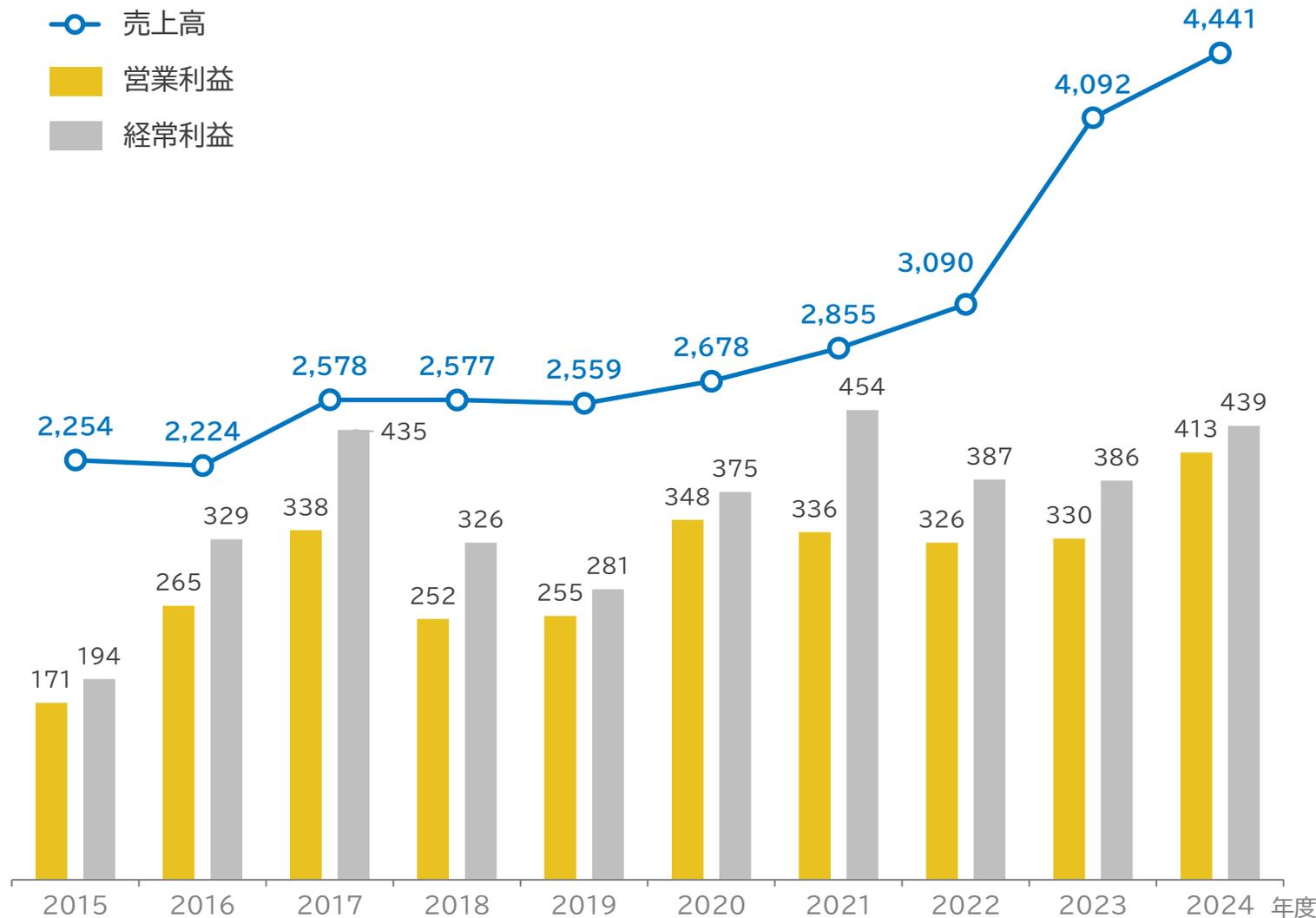
■ セグメント別営業利益構成比

機能化学品事業

413億円



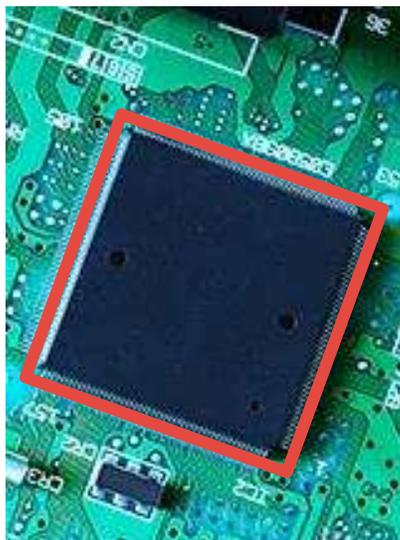
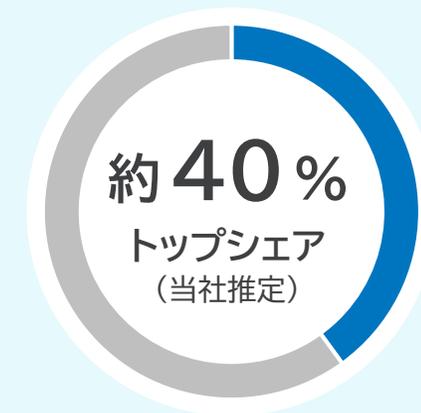
■ 機能化学品事業の業績推移(億円)



※ セグメント別売上高、営業利益の円グラフは、その他の事業及び調整額を除いて掲載しています。

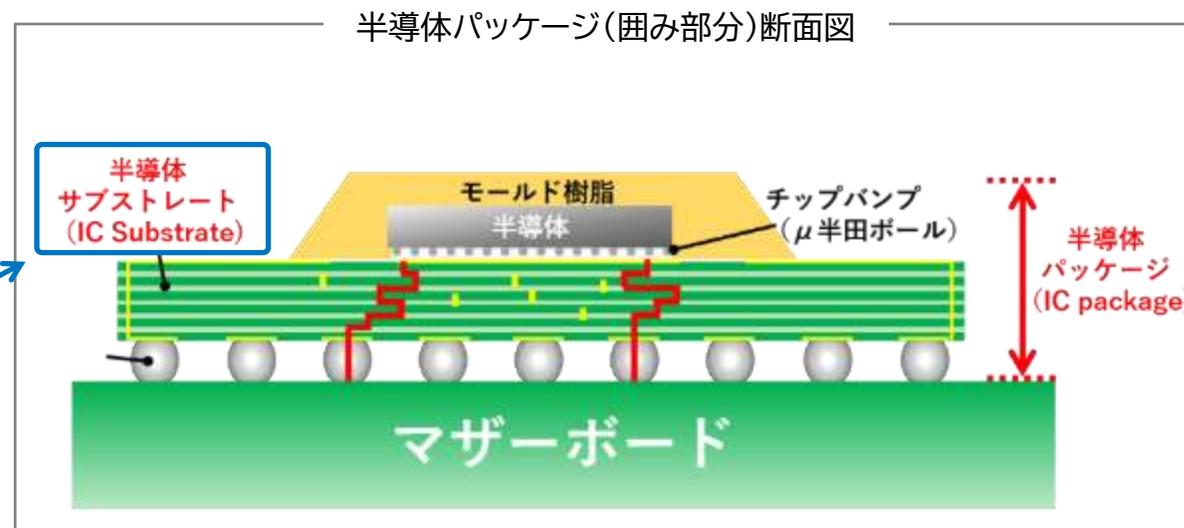
当社が開発したビスマレイミド・トリアジン(BT)樹脂というユニークな構造を有するプリント配線板用材料です。開発当時のプリント配線板材料は高価なセラミックが主流でしたが、BTはセラミックに比肩する耐熱性と電気特性を実現しました。このことが高く評価され、プリント配線板材料として世界中で使用されています。BTは今後も進化を続け、電子機器と情報技術の発展を支え続けていきます。

■ サブストレート基板材料における当社BT樹脂のシェア



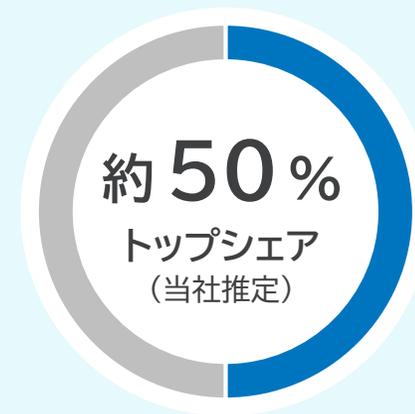
土台となるマザーボード(緑色の板)に各種の半導体チップとサブストレートが一体となったパッケージが搭載される(囲み部分)

半導体チップをパッケージする基板(サブストレート)にBT材料を使用

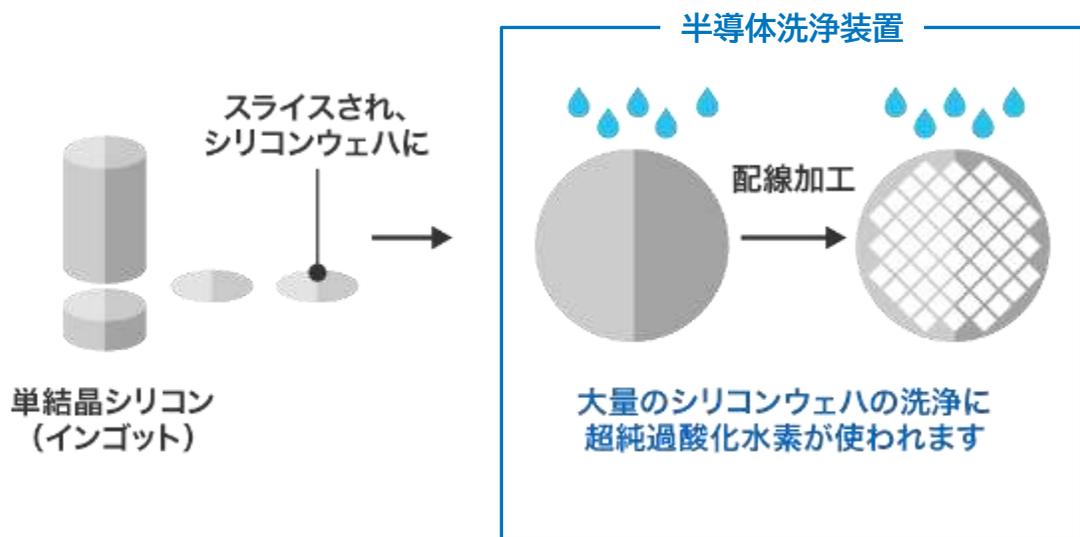


エレクトロニクスケミカルズ(EL薬品)とは半導体の洗浄工程やエッチング工程等で使用される電子工業用薬液です。当社が世界シェアNo.1を誇る「超純過酸化水素」や顧客ごとにカスタムした薬液「ハイブリッドケミカル」など、顧客密着型の生産・研究開発を展開し、高い競争力を誇っています。

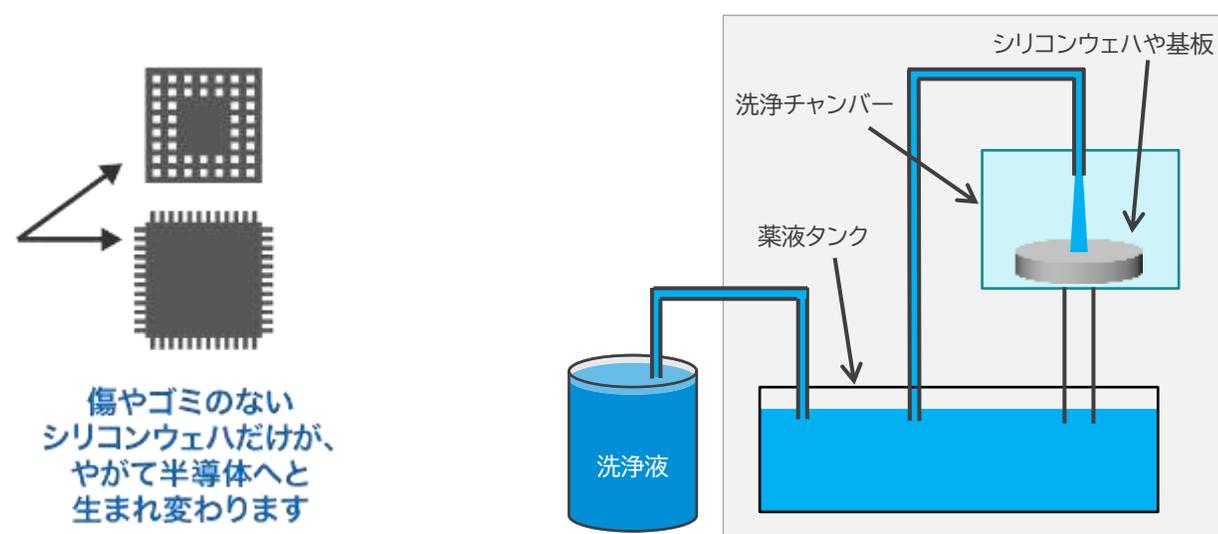
■ 超純過酸化水素の市場シェア



■ 半導体製造フロー



■ 半導体洗浄装置の構成模式図

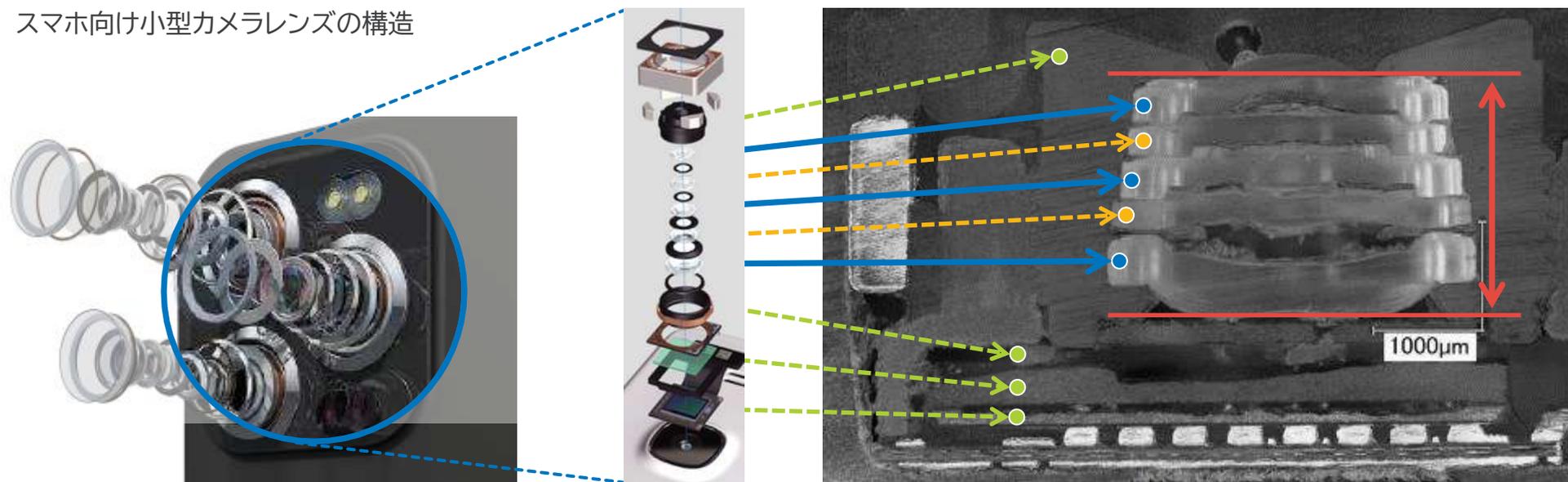


スマートフォンやVRデバイス、ドローンなどのカメラレンズ材料として広く採用されている光学樹脂ポリマー。レンズの薄型化や画像の鮮明化に貢献できる性能はもとより、きめ細やかなカスタマーサポートを通じて、顧客満足度の最大化を目指しています。現在は約80%がスマホ用途ですが、監視カメラや車載レーダーなど市場拡大が期待されます。



※高屈折樹脂として

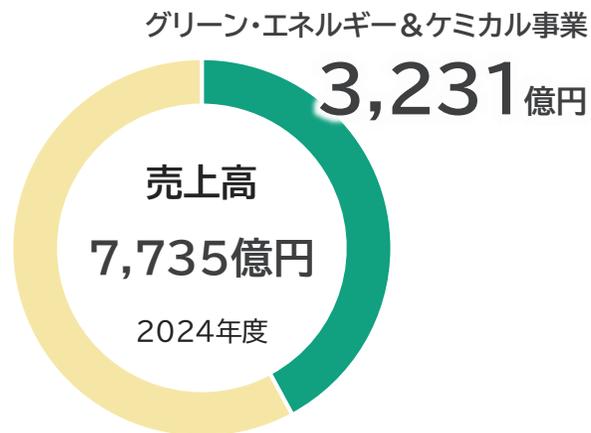
■ スマホ向け小型カメラレンズの構造



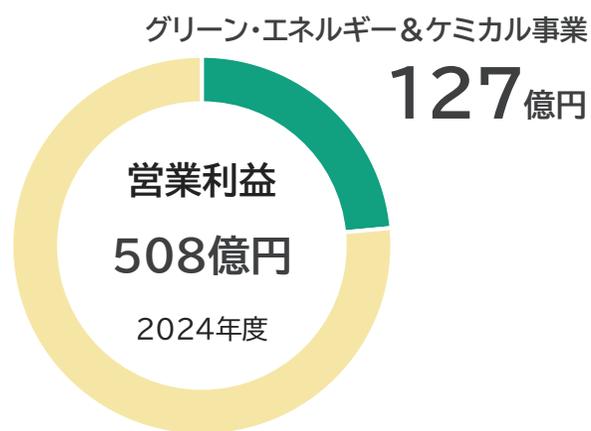
当社材料

- 高屈折材(凹レンズ)
- 低屈折材(凸レンズ)

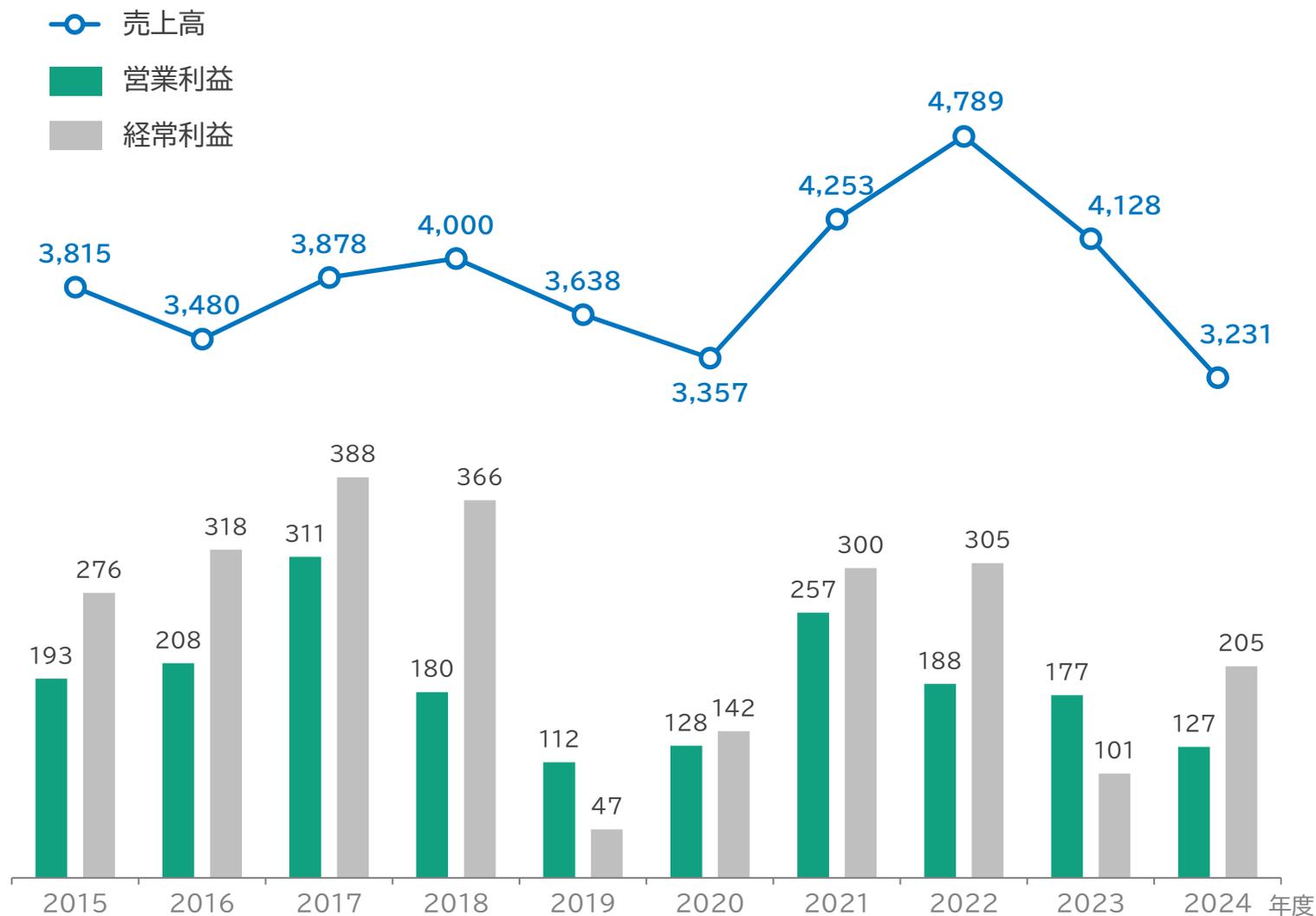
■ セグメント別売上高構成比



■ セグメント別営業利益構成比



■ グリーン・エネルギー&ケミカル事業の業績推移(億円)



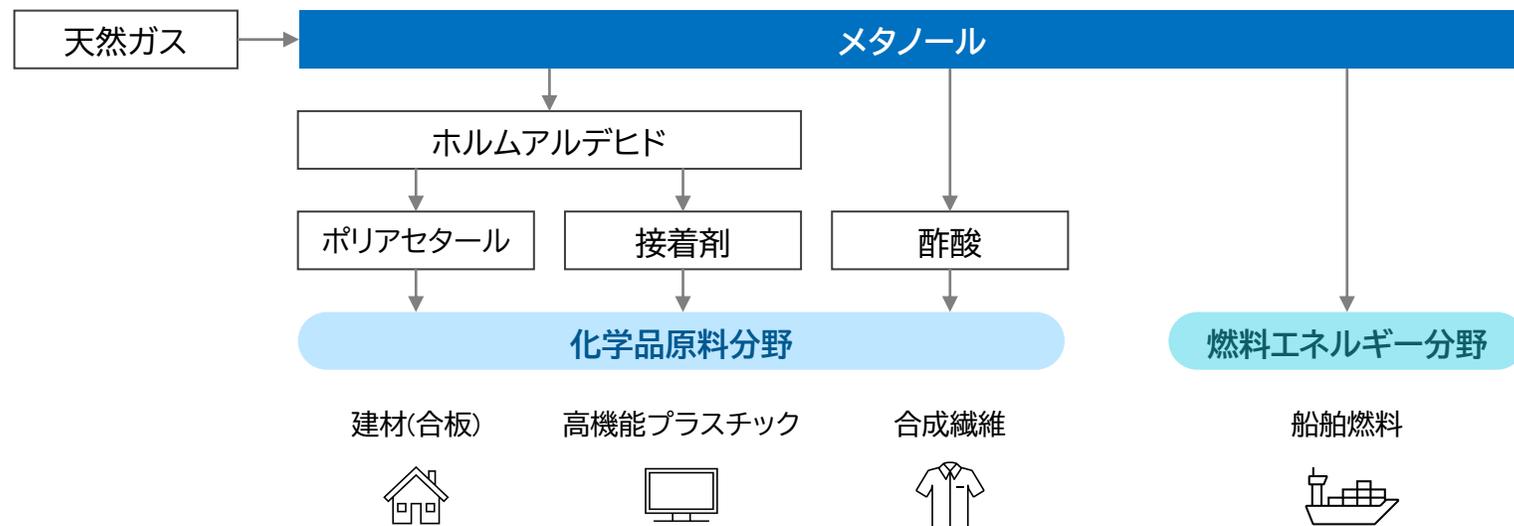
※ セグメント別売上高、営業利益の円グラフは、その他の事業及び調整額を除いて掲載しています。

1952(昭和27)年に日本で初めて、新潟県で自社採掘した天然ガスからメタノール合成を成功したところから始まります。独自開発の触媒と自社技術を用いた海外でのメタノール生産、ロジスティクス、販売、誘導品の製造に至るまで、競争力のあるメタノールバリューチェーンを展開する世界唯一のメタノール総合メーカーです。



※2024年度実績として生産能力世界3位
(当社技術を用いた関係会社の総計)

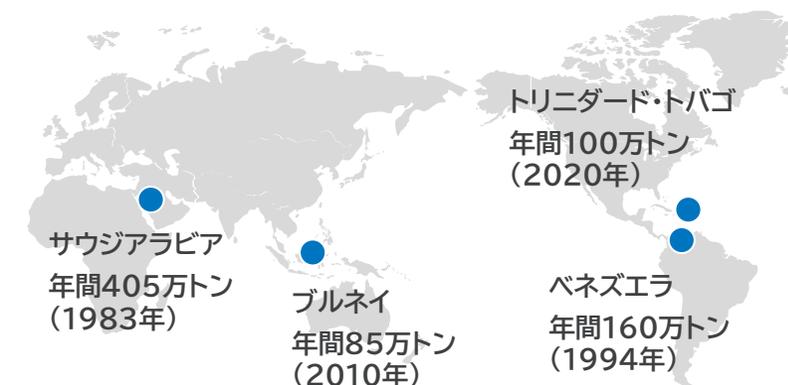
■ メタノールの用途



■ メタノールの生産拠点

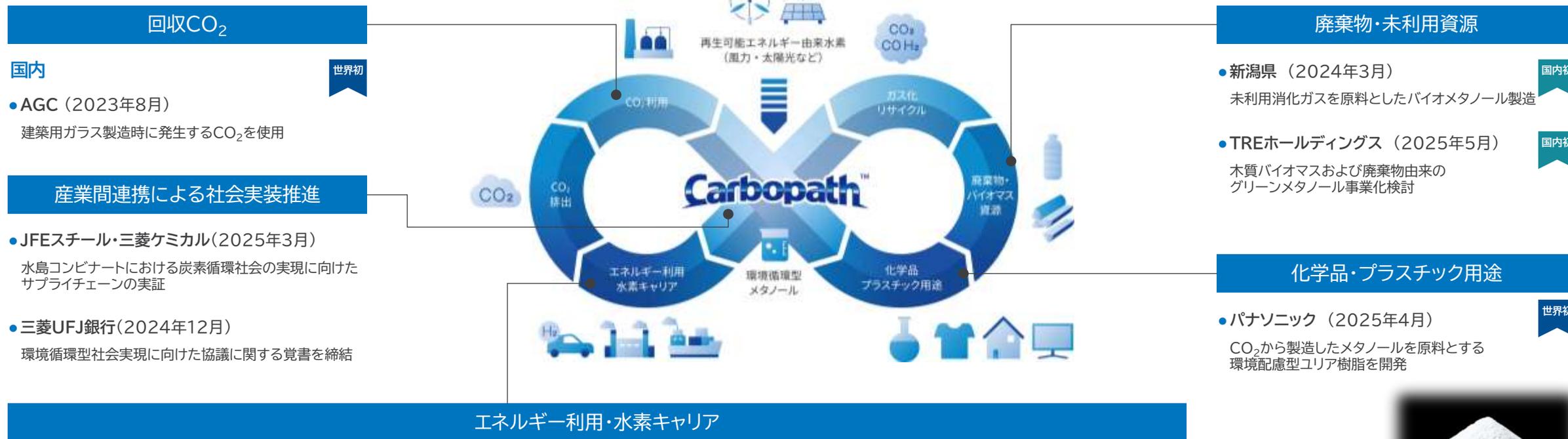
合計:年間750万トン

※()内は操業開始年



– 当社グループでは、CO₂や廃棄物等から環境循環型メタノールを介してエネルギーや素材を生み出すことを目指す環境循環型プラットフォーム「Carbopath™(カーボパス)」の構築を推進しており、産業横断的な提携を進めています。

■ 構想のイメージと取り組み (主な共同研究・事業化検討プロジェクト)



回収CO₂

- 国内** 世界初
- AGC (2023年8月)
建築用ガラス製造時に発生するCO₂を使用

産業間連携による社会実装推進

- JFEスチール・三菱ケミカル(2025年3月)
水島コンビナートにおける炭素循環社会の実現に向けたサプライチェーンの実証
- 三菱UFJ銀行(2024年12月)
環境循環型社会実現に向けた協議に関する覚書を締結

廃棄物・未利用資源

- 新潟県 (2024年3月) 国内初
未利用消化ガスを原料としたバイオメタノール製造
- TREホールディングス (2025年5月) 国内初
木質バイオマスおよび廃棄物由来のグリーンメタノール事業化検討

化学品・プラスチック用途

- パナソニック (2025年4月) 世界初
CO₂から製造したメタノールを原料とする環境配慮型ユリア樹脂を開発

エネルギー利用・水素キャリア

メタノール輸送船 国内初

- 横浜市、マースクAS社など6社
横浜港におけるグリーンメタノール利用促進に向けての覚書を締結。日本における船舶へのメタノール燃料供給拠点の実現と普及促進(2023年12月)
横浜港においてメタノール輸送船を利用したパンカリングシミュレーションを実施(2024年9月)

- トヨフジ海運(トヨタグループの海運会社)
国内自動車運搬船向けにメタノール燃料を供給(2024年6月)

- 商船三井
新造メタノール二元燃料外航船「第七甲山丸」が竣工(2025年5月)

- 国華産業
メタノール専焼内航船の長期定期傭船契約とメタノール燃料供給について基本合意(2025年3月)



水素キャリア

- Methanol Reformer社 Element1社
水素社会に向けたメタノールによる水素ソリューションの開発・商業化に向けた提携(2025年2月)



ユリア樹脂

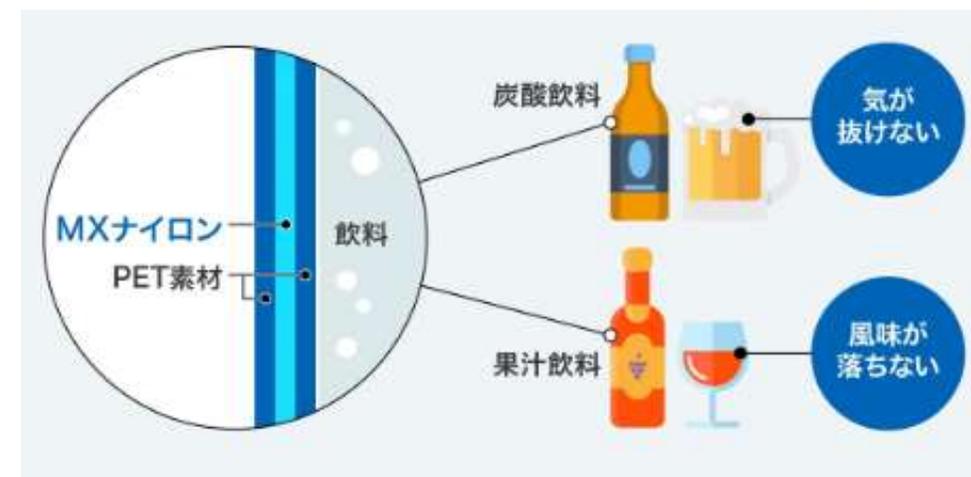
メタキシレンジアミン(MXDA)は室温では無色液体で、骨格にベンゼン環を取り込んだ脂肪族ジアミンです。この独特の化学構造により、エポキシ、ポリアミド及びウレタン用途で使用される場合、独自の性能を発揮します。MXDAは30年以上にわたり、世界中で塗料用エポキシ硬化剤として使用されております。MXDAを使用したエポキシ硬化剤は低温硬化性を特徴とし、塗料の耐薬品性、防蝕性を向上させます。



主に橋や船舶、風力発電機のブレードなどの耐候性が求められる塗料や補修剤、他に床材としても使用される



MXDAの派生品である「MXナイロン」も世界シェアNo.1であり、PETボトル容器の原材料として使用される。



プロジェクトの狙い:

MXDA最大市場 欧州での生産拠点確保

- MXDAは、メタキシレン誘導品の一つであり、エポキシ樹脂硬化剤、ポリアミド、イソシアネート等が主な用途。
- 環境負荷の低い風力発電用ブレードの補修材も新規用途として評価が進んでおり、今後も安定的な市場拡大が見込まれる。現在、当社は国内2拠点にて生産。



- 2021年9月 最大市場である欧州(オランダ・ロッテルダム工業地帯)にて年産20,000MTのMXDA製造設備を建設する計画を公表。
- 連結子会社 MGC Specialty Chemicals Netherlands B.V. (MSCN社)にて当初2024年7月生産開始を目指し、建設工事を進めてきた。

建設工事一時中断・減損計上

- 昨年度実施した工事業者の切り替え等による工期遅延に加え、ロシア・ウクライナ紛争に端を発した建設費や人件費の高騰、MXDA市場における競争環境の変化等により、急速に同プロジェクトの事業環境が悪化。
- かかる状況を踏まえ、[2025年9月17日開催の当社取締役会において同建設工事の一時中断を決議・公表](#)。
- 工事一時中断を受けて、本プロジェクトの経済性、回収可能性について総合的に評価した結果、[2025年度2Q連結決算にてMSCN社固定資産に対して、502億円の減損損失を計上](#)。さらに、3Q連結決算にて32億円を追加計上。



MGC

3. 中期経営計画 Grow UP 2026

- 独自性・存在感のある事業に磨きをかけ、事業を通じた社会課題の解決に貢献
- 2030年には、売上高1.2兆円、営業利益1,200億円、営業利益率10%以上、ROE 12%以上、ROIC 10%以上を目指す

サステナビリティ経営を支える経営資源

技術基盤
多様な自社開発技術

企業風土
起業家精神に基づいた進取の気性

パートナーシップ
様々なパートナーとの価値協創

安全文化
事業活動の礎

サステナビリティ経営の推進 = 社会的価値と経済的価値の両立

事業ポートフォリオの強靱化

Uniqueness & Presence

サステナビリティ経営の推進



財務目標

売上高 **1.2兆円**

営業利益 **1,200億円**

営業利益率 **10%以上**

ROE **12%以上** ROIC* **10%以上**

非財務目標

GHG排出量 **39%以上削減 (2013年度比)**

Sharebeing 製品売上高 (環境貢献製品売上高) **5,000億円以上**

*ROIC = (営業利益 - 法人税等 + 持分法損益) / 投下資本

事業を通じた社会課題の解決

ICT・モビリティ社会発展

エネルギー・気候変動問題解決

医療・食料問題解決

中計期間 :2024年度~2026年度の3年間

位置づけ :Grow UP 2023の後編・2030年ありたい姿の実現に向けた助走期間
前中計の目標に再チャレンジ、「化学に基づく、特色と存在感あるエクセレントカンパニー」へ更なる高みを目指す
キーワードは「Uniqueness & Presence」

目標 **1** 事業ポートフォリオの強靱化

施策1

「Uniqueness & Presence」へのフォーカス

施策2

イノベーションによる新しい価値の創造

施策3

重点管理事業の再構築

目標 **2** サステナビリティ経営の推進

施策1

カーボンニュートラル実現に向けた取り組みの加速

施策2

人的資本経営の充実

施策3

マテリアリティマネジメントの推進

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた企業価値向上策の推進

— 最終年度目標数値は前中計目標を上回り、再チャレンジ。資本コストを意識した経営を推進し、ROE、ROICの向上を目指す

	2023年度実績	Grow UP 2026		Grow UP 2026 2026年度目標
		2024年度実績	2025年度予想*1	
売上高	8,134億円	7,735億円	7,300億円	8,500億円
営業利益	473億円	508億円	470億円	850億円
営業利益率	5.8%	6.6%	6.4%	10%以上
経常利益	460億円	603億円	550億円	950億円
EBITDA*2	849億円	973億円	972億円	1,500億円
ROE	6.1%	6.9%	—	9%以上
ROIC*3	3.3%	6.4%	3.9%	8%以上

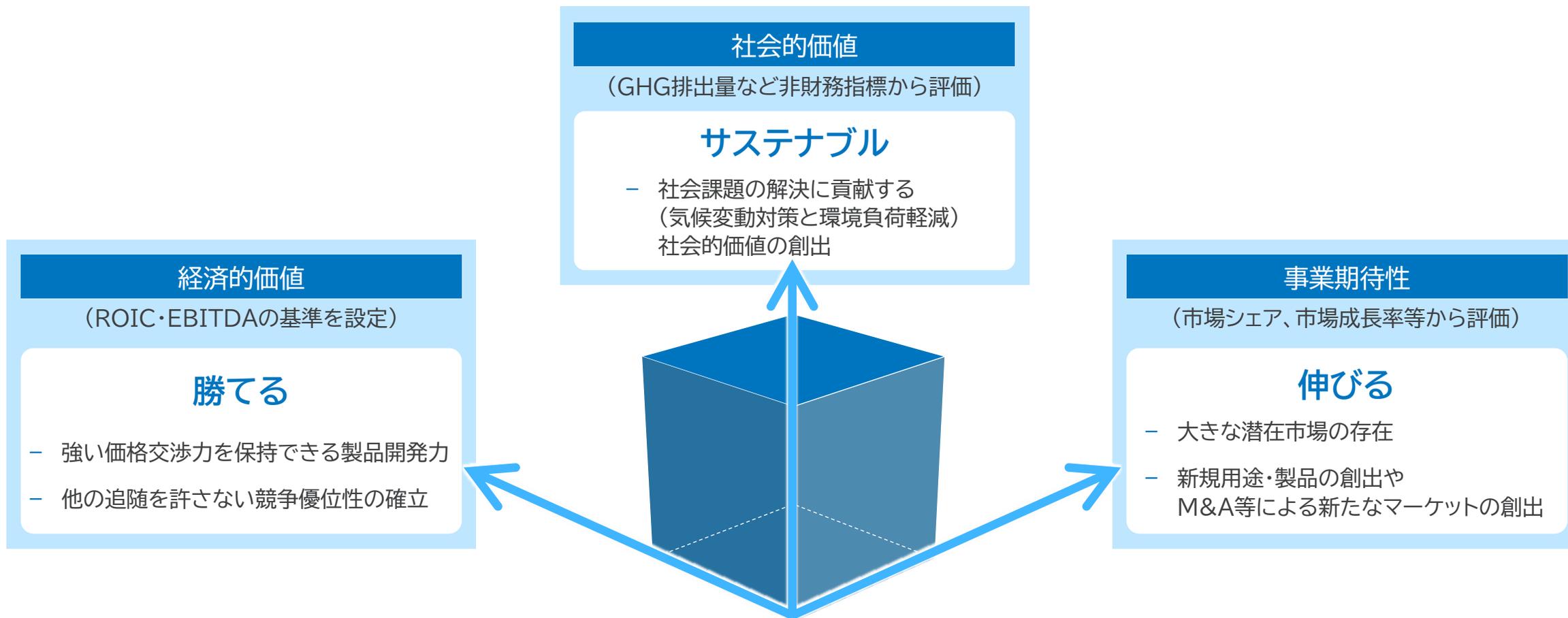
*1 2026年2月10日公表

*2 EBITDA = 経常利益 + 支払利息 + 減価償却費

*3 ROIC = (営業利益 - 法人税等 + 持分法損益) / 投下資本

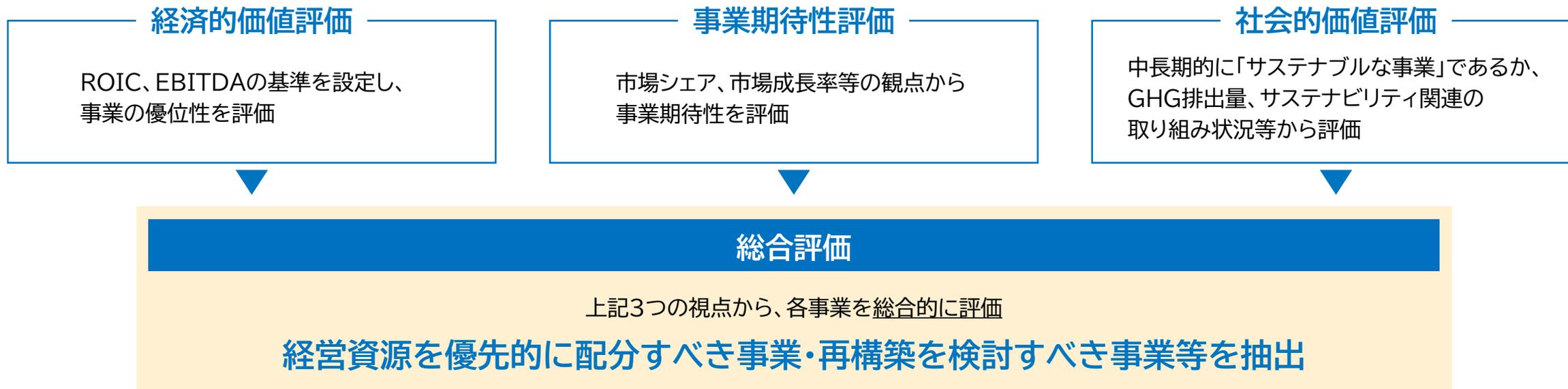
3軸で「Uniqueness & Presence」 = 差異化事業 を選別

- これまでの差異化事業を「Uniqueness & Presence事業」と改称
- 「伸びる」「勝てる」「サステナブル」の観点で優れ、社会的価値と経済的価値を両立して持続的に成長できる事業と再定義



3軸を満たす事業に注力・強化 = 事業ポートフォリオの強靱化

－ 経済的価値・事業期待性・社会的価値の3つの視点をもとに、各事業を総合的に評価



Grow UP 2026スタート時点の事業ポートフォリオ区分

Uniqueness & Presence = 差異化	基盤	新規・次世代	重点管理
<p>ICT3事業 = 成長ドライバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電子材料 ● 無機化学品(EL薬品等) ● 光学材料 <ul style="list-style-type: none"> ● メタノール ● エネルギー資源・環境事業 ● POM ● MXDA/芳香族アルデヒド ● ポリマー材料 	<ul style="list-style-type: none"> ● メチルアミン・アンモニア系 ● MMA系 ● ホルマリン・ポリオール系 ● 脱酸素剤 	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフサイエンス系 ● 新規・次世代製品 	<ul style="list-style-type: none"> ● PC系 ● キシレン分離/誘導品

主要投融資案件の進捗およびGrow UP 2026の投融資計画

- 前中計では計画2,400億円に対し、約2,100億円の投融資を実施
- 今中計でも高水準の投融資を継続。3年間合計では約3,000億円を計画し、U&P事業への集中投資を推進

U&P事業の主要な投資案件

Grow UP 2023			Grow UP 2026
2021年度	2022年度	2023年度	2024年度～
		半導体パッケージ用BT材料 生産能力増強(タイ)	ICT3事業
		光学樹脂ポリマープラント増設(鹿島)	ICT3事業
		EL原料過酸化水素工場新設(中国)	ICT3事業
		EL超純過酸化水素工場新設(中国)	ICT3事業
		芳香族アルデヒドプラント増設(水島)	
		超純過酸化水素 生産能力増強(韓国、天安)	ICT3事業
		水溶性天然ガス・ヨウ素の新規開発(新潟・西蒲原)	
		超純過酸化水素 生産能力増強(米国・オレゴン州)	ICT3事業
		超純アンモニア水 生産能力増強(シンガポール)	ICT3事業
		光学樹脂原料モノマープラント新設(新潟)	ICT3事業
		EL原料過酸化水素工場新設(台湾)	ICT3事業
		MXDA生産設備新設(オランダ)	
		超純過酸化水素 生産能力増強(米国・テキサス州)	ICT3事業
		超純アンモニア水 生産能力増強(米国・テキサス州)	ICT3事業
		半導体パッケージ用BT材料 生産能力増強(タイ)	ICT3事業
		レンズモノマー製造プラント新設(四日市)	ICT3事業
		水溶性天然ガス・ヨウ素の新規開発(新潟・東新潟)	
		超純過酸化水素 生産能力増強(米国・アリゾナ州)	ICT3事業
		環境循環型メタノール製造設備新設(国内)	
		超純アンモニア水 生産能力増強(新潟)	ICT3事業
		超純過酸化水素 生産能力増強(佐賀)	ICT3事業



重点管理事業の再構築進捗状況：PC系(ポリカーボネート)

－ 中国拠点の高付加価値化戦略や、コスト削減が進展。生産・販売・研究開発体制を再構築中

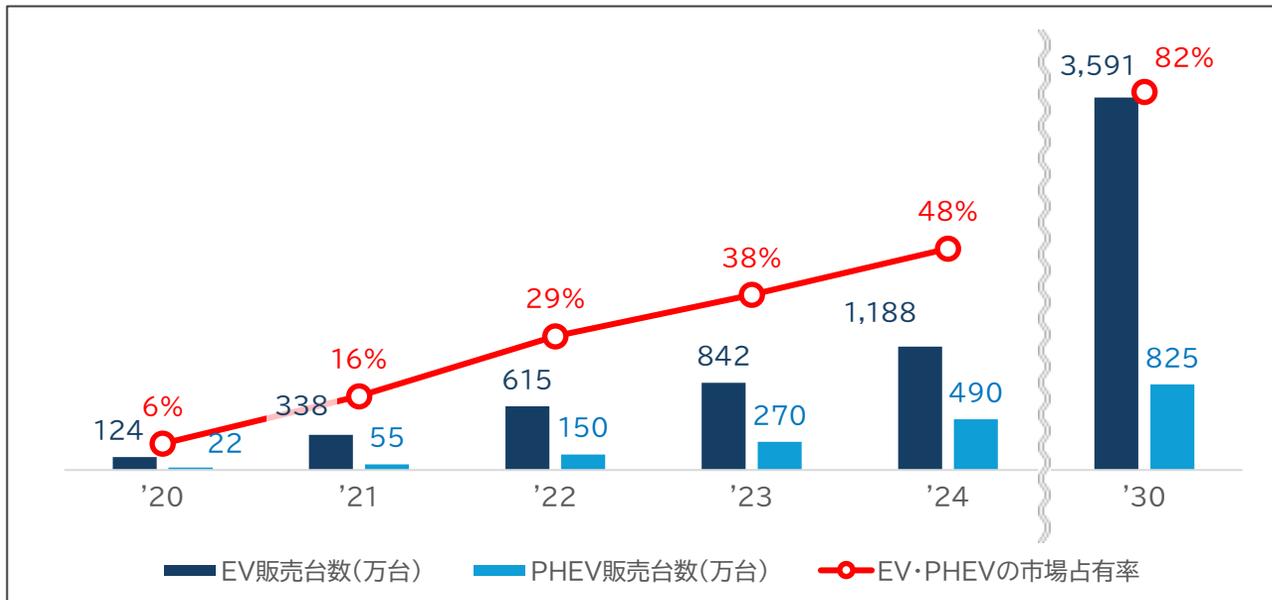
施策 実施状況

- 中国拠点の高付加価値戦略(中国EV向け販売増等)・コスト削減が進展し、採算が改善
- 生産・販売・研究開発体制の再構築検討

今後の 取り組み

- MEP再編効果の発現。事業環境に合わせた生産能力適正化(数年以内に15%以上削減を視野)
- コスト削減の徹底(原料調達見直し、海外販売拠点の再構築と技術サービス・RD体制の再編による一般管理費削減と機能強化)
- 高透明品等の高付加価値品比率の向上(24年度40%→26年度45%へ)

中国市場のEV・PHEV販売台数と市場占有率の推移



出所:IEA(国際エネルギー機関)「Global EV Data Explorer」



デイトタイムランニングライト
(DRL、常時点灯燈)(イメージ)



スマホ用導光板

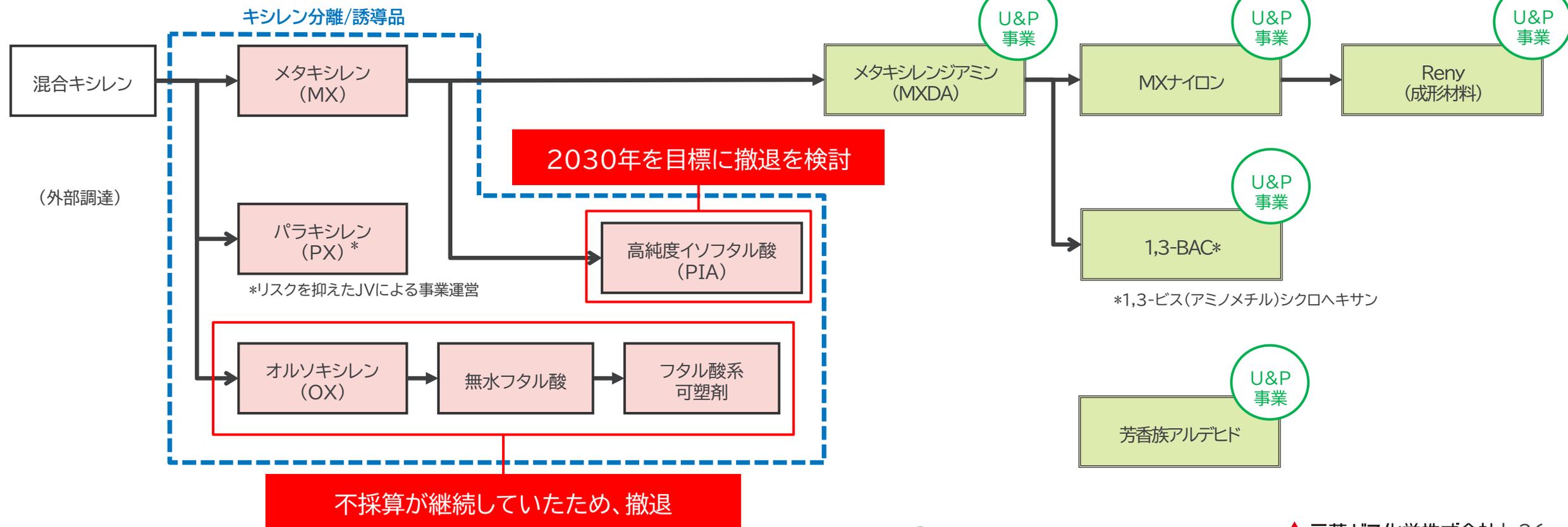
施策実施状況

- 不採算であったOX系チェーン(OX-PA-可塑剤)は、生産を停止し撤退

今後の取り組み

- メタキシレンの川下事業の伸長に応じて、PIA事業からは2030年を目標に撤退を検討

■ キシレン分離/誘導品のプロダクトチェーン



- ICT、モビリティ、医・食の3つのターゲット領域に特に注力し、気候変動課題の解決に資する研究開発も推進
- MI、IPランドスケープの活用を進め、研究開発を加速

マテリアリティ 新しい価値を生み出す研究開発の推進



マテリアリティKPI

研究員のDX人材比率

67% → 75% → 80%

2023年度想定 2026年度目標 2030年度目標



気候変動課題の解決

気候変動課題の解決に資する研究開発テーマ群

- 環境循環型メタノール
- CO₂利用ポリカーボネート
- バイオマスレンズモノマー
- CCS*3
- DAC*4 他

*3 Carbon Capture and Storage
*4 Direct Air Capture、直接空気回収技術

マテリアリティKPI

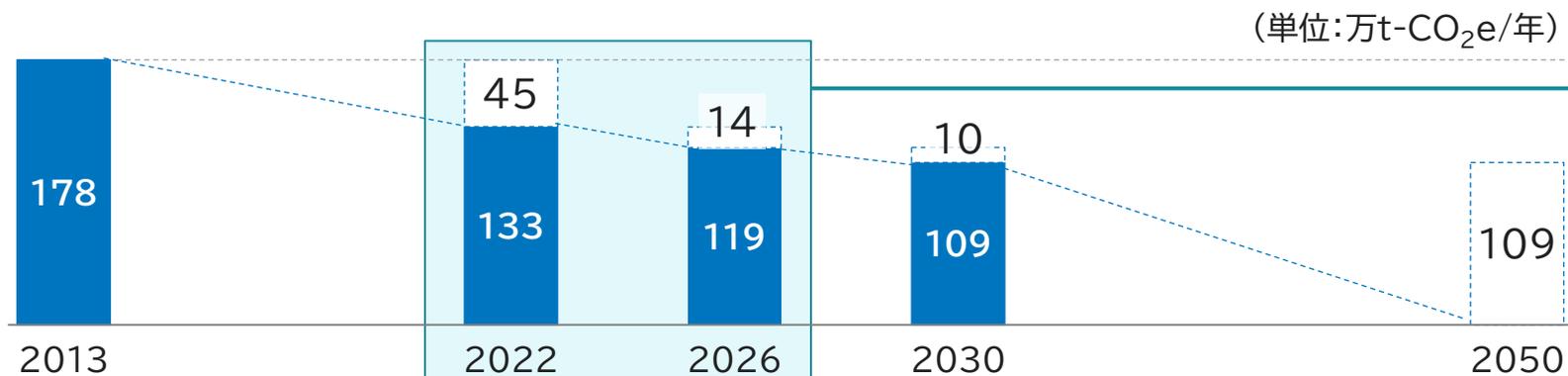
気候変動課題の解決に貢献する研究員比率

25%以上

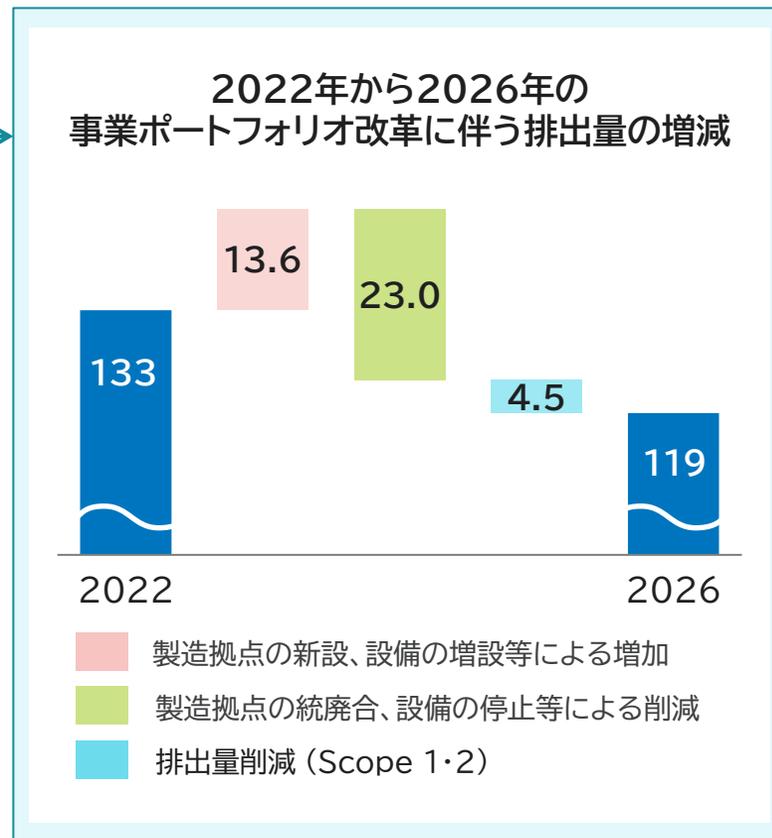
*1 マテリアルズ・インフォマティクス:機械学習等の情報科学(インフォマティクス)を用いて、様々な材料開発の効率を高める取り組み
*2 知財情報解析を活用して知財経営に資する戦略提言を図ること

カーボンニュートラル(CN)実現に向けた取り組みの加速～CN達成ロードマップ～

GHG排出量の推移、GHG排出量の削減・増加項目



期間		2013-2022	2023-2026	2027-2030	2031-2050
製造拠点の新設、設備の増設等による増加			▲13.6		
製造拠点の統廃合、設備の停止等による削減			23.0	2.6	46.9
R&D協働による排出量削減*1					
排出量削減 (Scope 1)	高効率設備への更新、省エネルギー	45.0	1.9	2.6	10.0
	燃料転換		1.1	0.2	
排出量削減 (Scope 2)	再エネ導入、移行エネルギー活用		1.5	2.3	30.5
	エネルギー供給会社との協働			2.4	21.6



排出量削減に資する事業・技術



*1: 新エネルギーシステム実装、CCUS実装等 *2: Carbon Capture and Storage *3: 出典: 日本CCS調査(株) *4: 提供: 安比地熱(株)

- 中計において、「事業を通じた社会課題の解決への貢献」をマテリアリティに設定
- MGCグループ環境貢献製品として、「Sharebeing(シェアビーイング)」を制定し、環境貢献に資する製品の拡充を一層推進

～Sharebeing の制定及びマテリアリティKPIの設定～

(MGCグループ環境貢献製品*1)

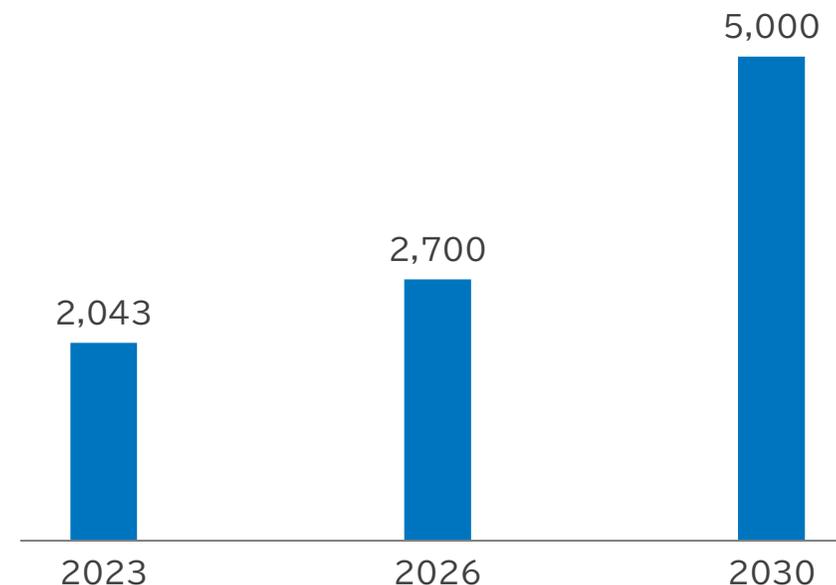


「Sharebeing」の由来は、「Share:分かち合う」+「Being:存在(実在)」です。
ミッション「社会と分かち合える価値の創造」のもとで、ユニークな独自技術により、
社会の要請に応える価値ある製品において社会の環境負荷を低減する
「Sharebeing:社会と分かち合える製品」を提供するという想いを込めています。

<https://www.mgc.co.jp/sustainability/eco-friendly/>

マテリアリティ/KPI	Sharebeing 製品売上高
事業を通じた 社会課題の解決への貢献	2,043億円 → 2,700億円 → 5,000億円
	2023年度実績 2026年度目標 2030年度目標

■ Sharebeing 製品売上高の推移 (億円)



*1 環境貢献製品:ミッション「社会と分かち合える価値の創造」のもとで、ユニークな独自技術により、社会の要請に応える価値ある製品において社会の環境負荷を低減する製品群を指す。

サステナビリティ評価

- 当社のサステナビリティ経営は、様々なサステナビリティ評価にて高評価を獲得
- 年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が採用している5つのESG指数に採用
- 2025年5月には、新たなIndexである「JPX日経インデックス人的資本100」にも新規採用

GPIFが採用するESG指数 ※2026年2月17日時点



MSCI日本株
ESGセレクト
リダース指数

MSCI日本株
女性活躍指数

Morningstar
日本株式
ジェンダー
ダイバシティ
ティルト指数



三菱ガス化学株式会社のMSCI指数への組み入れ、及びMSCIのロゴ、商標、サービスマーク、指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による三菱ガス化学株式会社の後援、宣伝、プロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCI及びMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

ESGインデックスの組み入れ ※2026年2月17日時点



社外評価



CDP気候変動 : B
CDP水セキュリティ: B

東洋経済
CSR企業ランキング
147位
(2025/3、1,715社対象)





4. 株主還元

中期経営計画期間の株主還元方針

- － 今中計より株主還元を一層強化。累進配当*を採用し、総還元性向を引き上げ

* 中計3年間の期間を対象。原則、減配を実施せず、配当維持または増配を行う。

- ① **累進配当方針(原則、減配を実施せず、増配または維持)を採用**
2009年度以降、減配をせず安定的に配当を引き上げてきたが、新中計でより明確化
- ② **総還元性向を前中計の「40%目安」から「50%目安」に引き上げ**
機動的に自己株式を取得し、資本効率の向上を図る
- ③ **DOE(自己資本配当率)は3.0%を目標値に**

これまでの株主還元方針(~2023年度)

- － 安定配当の継続
- － 総還元性向40%を目安
- － 機動的な自己株式取得を実施



中計期間の株主還元方針

- － **「累進配当方針」を採用**
(原則、減配を実施せず、増配または維持)
- － **「総還元性向」を50%目安に引き上げ**
(機動的な自己株式取得を強化、追加還元策として柔軟に実施)
- － **DOEは3.0%を目標値に**

ー 財務健全性を担保しつつ、財務レバレッジの活用を含めたBSコントロールの強化等、資本コスト低減に向けた取り組みを推進

- 2025年度の年間配当金は100円を予想(普通配当ベースで5円の増配)
- 2024年度は150億円の自己株式の取得、および取得株数(555万株)の消却を実施

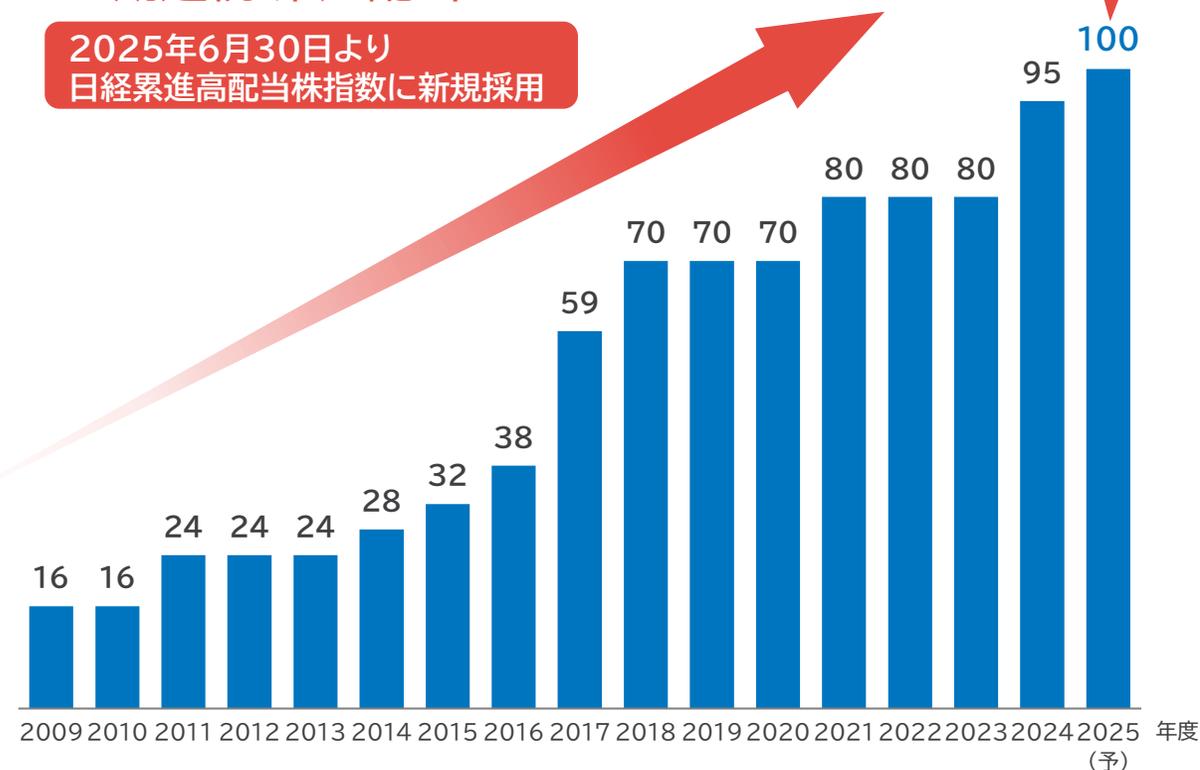
■ 一株当たり配当金の推移(円)

16期連続 累進配当

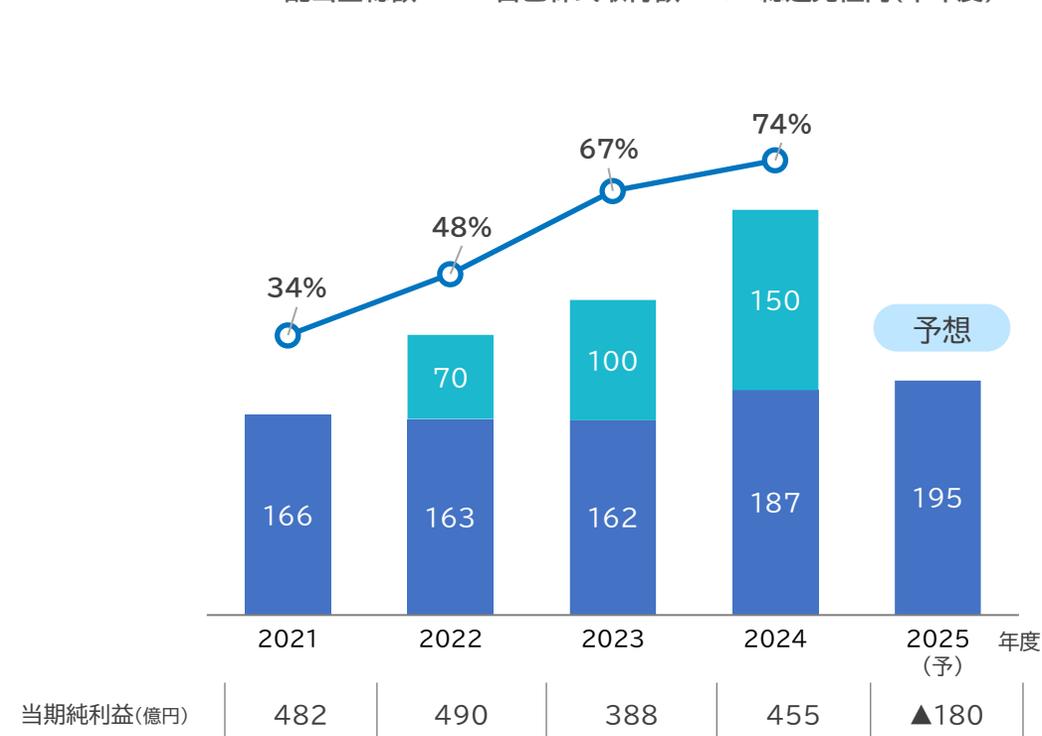
2025年6月30日より
日経累進高配当株指数に新規採用

予想配当利回り約2.4%*

■ 株主還元の推移(億円・%)



■ 配当金総額 ■ 自己株式取得額 ● 総還元性向(単年度)



* 2026年2月16日終値時点



参考資料

主なIRコミュニケーションツール



– IRサイトや決算説明会資料、統合報告書など、幅広いIRコミュニケーションツールを展開

IRサイト

IRサイトランキングでは高評価を獲得



決算説明資料(年4回)



株主通信誌(年2回)



統合報告書(年1回)



IRメール配信サービス



適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。
ぜひご登録ください。



機能化学品事業部門

機能化学品

- 無機化学品
 - エレクトロニクスケミカルズ
(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)
 - 過酸化水素等
- エンジニアリングプラスチック
 - ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等
- 光学材料
 - 光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等

特殊機能材

- 電子材料
 - 半導体パッケージ用BT材料等
- 生活衛生ソリューションズ製品
 - 脱酸素剤:エージレス[®]、環境衛生薬品:ダイヤパワー等

グリーン・エネルギー&ケミカル事業部門

天然ガス系化学品

- メタノール
- メタノール/アンモニア系化学品
 - アンモニア・アミン類
 - MMA系製品
 - ホルマリン・ポリオール系製品、等
- エネルギー資源・環境事業

芳香族化学品

- MXDA、芳香族アルデヒド、ポリマー材料
 - MXナイロン等
- キシレン分離/誘導品
 - メタキシレン
 - 高純度イソフタル酸(PIA)等

* 2025年4月の生活衛生ソリューションズ事業部の設立に伴い、無機化学品のうち環境衛生薬品(医療機器洗浄、飲料容器殺菌、公害対策薬剤)は特殊機能材の主要製品へ移動しました。

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2023年度実績			2024年度実績			2025年度実績/予想*		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)
売上高	3,996	4,137	8,134	3,881	3,854	7,735	3,616	3,683	7,300
GEC	2,094	2,034	4,128	1,639	1,592	3,231	1,411	1,474	2,885
機能化学品	1,941	2,150	4,092	2,229	2,212	4,441	2,199	2,201	4,401
全社/調整	▲39	▲47	▲86	12	49	62	6	6	12
営業利益	221	252	473	337	170	508	251	218	470
GEC	94	82	177	101	26	127	43	43	87
機能化学品	142	188	330	252	161	413	227	198	426
全社/調整	▲16	▲19	▲35	▲15	▲16	▲32	▲19	▲23	▲43
経常利益	249	210	460	374	228	603	314	235	550
GEC	74	26	101	142	62	205	62	33	95
機能化学品	178	207	386	258	180	439	260	205	466
全社/調整	▲4	▲23	▲27	▲27	▲13	▲41	▲7	▲4	▲11

* 2026年2月10日公表

セグメント別 2024年度及び2025年度 四半期別推移



単位:億円	2024年度実績				2025年度実績/予想			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q(予)
売上高	1,881	2,000	1,950	1,904	1,779	1,837	1,877	1,805
GEC	783	855	804	787	682	728	755	719
機能化学品	1,092	1,136	1,134	1,078	1,089	1,110	1,120	1,080
全社/調整	4	8	10	38	8	▲1	2	4
営業利益	157	180	115	55	109	141	126	91
GEC	41	60	28	▲2	19	23	29	14
機能化学品	126	126	99	62	96	130	105	93
全社/調整	▲9	▲6	▲12	▲4	▲6	▲12	▲8	▲15
経常利益	179	194	164	64	138	176	166	68
GEC	45	97	41	21	39	23	31	1
機能化学品	139	119	126	54	99	160	126	79
全社/調整	▲5	▲22	▲2	▲10	▲0	▲7	9	▲13

単位:億円	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 (予)
設備投資額 [3Q累計]	350 [241]	309 [232]	392 [287]	423 [321]	402 [267]	547 [416]	646 [490]	817 [626]	887 [629]	820 [579]
減価償却費 [3Q累計]	256 [188]	270 [200]	274 [203]	295 [219]	306 [226]	319 [239]	335 [249]	363 [282]	346 [282]	390 [283]
研究開発費 [3Q累計]	192 [142]	189 [142]	186 [138]	196 [140]	199 [149]	210 [156]	235 [171]	256 [193]	261 [193]	280 [195]
年度末人員(人)	8,034	8,009	8,276	8,954	8,998	9,888	10,050	7,918	8,146	8,339
EBITDA*1	894	1,088	976	616	817	1,070	1,050	849	973	972
U&P事業 営業利益	213	314	250	297	374	423	418	406	515	470
ROE(自己資本当期利益率)(%)	12.0	13.6	11.3	4.3	7.1	8.8	8.3	6.1	6.9	-
ROIC(投下資本利益率)*2(%)	9.6	12.1	9.5	3.6	6.2	7.4	6.4	3.3	6.4	3.9
売上高営業利益率(%)	7.9	9.9	6.4	5.6	7.5	7.8	6.3	5.8	6.6	6.4
一株当たり当期純利益 (円/株)	221.83	281.39	257.46	100.50	173.41	232.15	239.08	190.97	228.93	▲92.43
一株当たり配当金*4(円/株) [うち中間配当]	38.00 [16.00]	59.00 [24.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	80.00*3 [45.00*3]	80.00 [40.00]	80.00 [40.00]	95.00 [45.00]	100.00 [50.00]
総還元性向 (%)	30.1	32.5	27.2	111.4	40.4	34.5	47.9	67.5	74.1	-

*1 EBITDA=経常利益+減価償却費+支払利息 *2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本 *3 記念配当10円を含む

*4 当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しております。2016年度の一株当たり当期純利益および配当金については、当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

- 当社では、CSR・IR部 IRグループを主担当部署として、以下の通り株主を含めた機関投資家やセルサイド・アナリスト、個人投資家の皆様方などとの対話を実施しております。

2024年度のIR活動

	実績	内容
決算説明会	4回	四半期毎にアナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催
個別取材	約220件	株主を含む機関投資家・アナリスト等との定期的な面談を実施
海外機関投資家向けIR	45件	証券会社主催のカンファレンスへの参加や海外ロードショーにより、海外機関投資家と対面またはwebでの個別面談を実施
ESG面談及びスチュワードシップコード面談	14回	投資家とのESGエンゲージメントやSR対話を実施
機関投資家向けIRイベント	4回	事業説明会、カーボンニュートラル戦略説明会、工場見学会、等を開催
スモールミーティング	3回	アナリスト・国内外機関投資家と経営層との意見交換会を開催
社外取締役面談	1件	株主と社外取締役との個別面談を実施
個人投資家説明会	1回	個人投資家説明会をオンライン形式で開催

2024年度のIR活動の様子



中期経営計画説明会



展示会

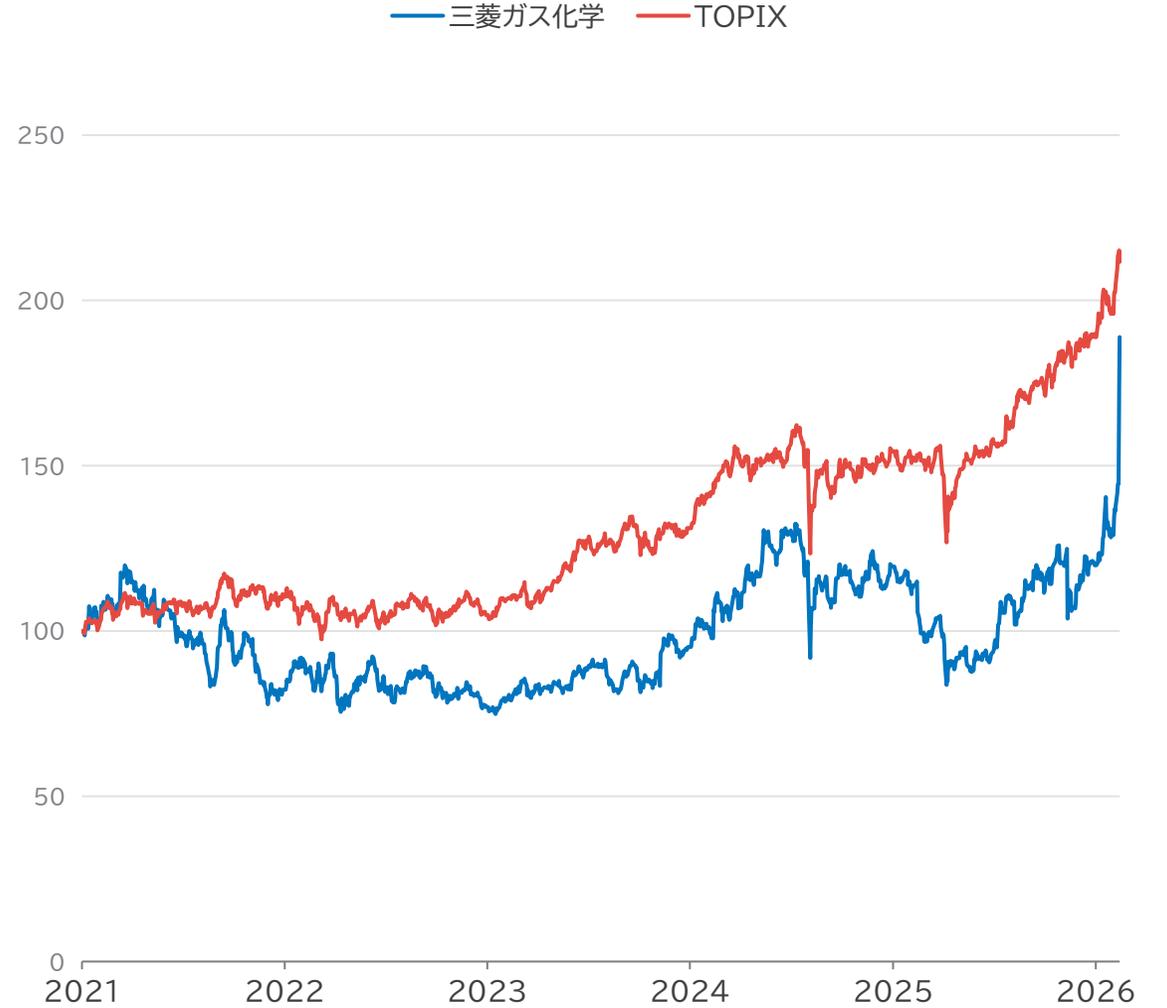


アナリスト・機関投資家向け工場見学会

三菱ガス化学 株価動向



三菱ガス化学 株価・TOPIXの相関



見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

 三菱ガス化学株式会社

CSR・IR部 IRグループ

TEL : 03-3283-5041 URL : <https://www.mgc.co.jp/ir/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。